不定期刊行　　第450号　2012.05.07

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
池田工業高等学校

池工の新歓

4月21、22の両日、池工では新たに入部した9名の新入部員の大歓迎会を行なった。10時半に学校を出発し、大峰牧場まで歩く。当日は暑くもなく寒くもない快適なハイキング日和。池工の生徒にとって大峰牧場は強歩大会の折り返し地点でもあり、上級生には馴染みの場所だ。途中で2度休憩をいれながら14時にはキャンプ場に到着した。昨日までは天気が悪かったが、今日は上々。

早速、テントを張る練習。新入生にとっては初めてのテント生活になる。上級生は新入生が9名も入ってくれたことで興奮、手取り足取りこちらが何も言わなくても後輩指導に余念がない。昨年は何も手を出せなかった2年生が頼もしく見える。3年生は言わずもがな。焼き肉の準備も心が弾む。気分が高揚している1年生は近くの池で石投げをしたり、急に走り出したりとそれぞれに開放感に浸っている。この時期まだ訪れる人もない静かなキャンプ場に若人の弾んだ声がこだまする。

夕方5時半、焚き火を囲んでの焼き肉が始まると、何も言わなくても盛り上がる。若者の食欲はすさまじいばかり。こと本校の山岳部には草食男子は似合わない。焼き肉の締めは定番の焼きそば。それが終わると今度は、肝試し大会・・・。生徒たちは大はしゃぎである。どれだけ騒いでも今日は何の咎めもなし。さんざん騒がせた後は、ミーティングで一締め。10時には就寝すること。明日の朝は5時には起きて、食事の準備、撤収の後、山岳総合センターの人工岩場に移動すること。クライミングはメンタルな部分もあり、慎重さも求められるので、今日はゆっくり寝ること等々・・・。

翌日は予定通り、大町の人工岩場でクライミングを行なった。学校のボルダー壁とは違うリード壁に向かって対応は様々。リードを覚え始めた2年生、初めての懸垂下降にはまる生徒。トップロープクライミングとはいうものの恐怖におののく？生徒。何度も挑戦して腕が動かなくなるまで登った生徒・・・。昼のラーメンをみんなで食べて歓迎会は無事終了。心地よい疲れとともに今後のクラブ運営に期待のもてる2日間だった。

ゴールデンウィークの山スキーIN 白馬

今年のゴールデンウィーク後半は、天候が猫の目のようにめまぐるしく変化するまさに春らしい悩ましい天気だった。僕ら信高山岳会はこの悩ましい後半の連休を使って、猿倉をベースにして白馬周辺で山スキー合宿を計画した。既にニュースでも報道されている通り、僕らの登った小蓮華で、大量遭難が発生してしまった。死体に鞭打つ気はないが、彼らの様子を知る限り無資格者の無謀登山という気がしてならない。経歴を見れば、回数こそこなし、中には海外に行ったことのある方もいるとのことだが、それだけで山のベテランなどと言われては心外だ。スコップもツェルトも持たず生き延びる智恵を身につけていない彼らに、この時期のこの山域に登る資格があったとは思えない。

さて、我々は当初計画では3日は足馴らしに針ノ木で1本とも思っていたのだが、直前になって低気圧が通過するということでそれはカットし、3日午後4時に白馬山麓の

猿倉に集合し、4 日と 5 日の両日無理のない範囲で山スキーを楽しもうという計画に変更となった。集まったメンバーは、松田大、久根敏、大西英樹、田中初四郎、沼田陽子、小生の 6 名。3 日は夕刻 5 時半頃より雨が降り始める。遠く岡山からの田中さんを囲み、互いの今年度の状況などを交歓しながら、スキヤキをつつくうちに夜が更けた。夜中は、雨に降り込められたが、朝起きると曇り。徐々に回復が望めたが、午後はまた崩れるという予報である。「小蓮華から金山沢の山スキー」ならば午後のあまり遅くならないうちに下れるだろうということで、本日の行程を決定した。

朝食後、8 時のゴンドラに乗るべく栂池に移動する。ゴンドラからロープウェイを経由して、9 時に歩き始める。シールも利いて快適な登高である。天候は急速に回復し、午後崩れるなどと言う予報が信じられないような雲一つない青空が広がった。栂池自然園を横切り、船越の頭を目指して登っていく。天気が悪いという予報のためか、比較的登山者は少ない。10:10、斜度が増し始める 2065m 地点で休憩をする。この時点では気温も急速に上がり、半袖 T シャツになったメンバーもいるほどだった。一気に標高を稼ぎながら船越の頭を目指して進んでいくが、10:40 分ごろ青空のままぽつりぽつりと雨が身体に当たり始めたので、カッパを着た。ここからは斜面をトラバースしながら小蓮華まで登ることも可能だが、時間と天候の判断をし、早めに稜線に上がり、いつでも下れるようにした方がよかろうと、船越の頭に登り上げることにした。雨は、それほど激しくはないが、急速に寒気が入り込んできたのか、一時的に強くなったり、止んだりを繰り返しながら次第に激しさを増し、稜線が近づくにつれ風も少しずつ強くなってきた。

11:45　稜線舟越の頭手前の小ピークに到着。この時、松田さんは、白馬大池側を見て、軽装なのに動きが遅いパーティに気づいている。恐らく例の遭難パーティだったと思われるが、松田さんは「何処まで行くのかなぁーと一瞬感じたが、それまでであった。話題にもしなかった。」と言っている。小生も大池側を見て、松田さんと同じく雪が少ないなぁとは思ったが、件のパーティには思いも及ばなかった。この先、小蓮華まで行こうかどうしようかと検討している間に天候は一気に悪化し、それまでの雨が一気に雪に変わり横殴りに吹き付けてきた。こうなれば、36 計逃げるに如かず。我々は一気に下ることにした。12:20　吹雪の中を船越の頭の手前のコルから下る。斜度３０度。一気に 2350m くらいまで急斜面を滑り降りると、吹雪は収まったが、稜線付近は雲に覆われたままであった。2000m 付近まで下ると次第に雪が重くなり、滑らなくなるが、互いに滑りの様子を写真に撮りながら愉快に滑った。1550m 付近は、いつも右岸からの落石があるところだが、茶色い土砂の流れたあとのある斜面を新たな落石に注意しながら一気に下った。

13:25、白馬沢を渡り、14:00 には猿倉に到着。頭の上は青空が望めたが、白馬方面はガスがかかったままだった。栂池まで車の回収をしがてら、ガーデンの湯で汗を流して再び猿倉に戻ったのが 16:30 ころだったろうか、このころから猛烈な雨降りとなった。夕刻からはここから猛烈な風がテントを揺らした。一晩中吹き荒れる風に朝方ついに我々のエスパースはポールをへし折られてしまった。猿倉でさえこの有様だから、6 人がビバークしていた稜線では推して知るべしである。

翌 5 日も午後は悪天との予報だったので、午前中に 1 本と、6:30 に出発。双子尾根の対岸の尾根を 2320m付近まで登り、快適な滑降を満喫した。朝からヘリが爆音を轟かせていたが、それが件の 6 人の遭難パーティを探していたヘリであったことを知ったのは、下山後飯森の「十郎の湯」に到着する直前の正午のニュースだった。